熊本県立大学
国 文 研 究

第五十号（記念号）
 平成十七年三月

目 次

○『国文研究』回顧	山 本 捨 三 ……	1
○小山内薫の翻案劇論争	小 櫃 万津男 ……	3
○『日本考』の諸問題	福 田 益 和 ……	10
* * *		
○家持〈歌日記〉再読	山 崎 健 司 ……	27
○『名語記』断章	鈴 木 元 ……	41
○兼好の深き心を察する者なし —土肥経平の思想構造—	川 平 敏 文 ……	52
○「しか」は係助詞か	半 藤 英 明 ……	66
○両点本節用集の成立をめぐって	米 谷 隆 史 ……	79
○只野真葛『独考』論 —真葛は本当に女性解放の先覚者か—	山 村 美 桜 ……	90
○係助詞「も」の本質	廣 瀬 麻 矢 ……	107
* * *		
○天草版平家物語の表記についての基礎的考察	江 口 正 弘 ……	148(1)
・受贈雑誌一覧		… 119
・開講科目及び担当者一覧		… 126

熊本県立大学日本語日本文学会

編集後記

表題にも謳っているとおり、『国文研究』も本号をもって五十号を迎えることができました。これまで本誌を支えてきて下さった学生、院生、卒業生の皆さんと、これまでの本学科の教員の連携の賜物でしょう。この場をもって御礼を申し上げます。

五十号はひとつの節目であり、めでたいことではあります。現実にはよろこんでばかりもいられません。近年、他大学から送られてくるこの種の雑誌が急速に模様替えをし、「国文」もしくは「文学」を名乗る雑誌が影を潜める傾向にあります。時代の変化ということもあるのですが、ただ単に流されるだけというのも情けないものです。時代から目を逸らさず、しかし守るべきものは守って維持していきたいと、この五十号を機会に決意を新たにしております。

前号では編集に工夫を凝らしたいと予告しておりましたが、法人化という荒波の中で企画編集のゆとりがなくなつてしまいました。しかしながら、これまで本学科で研究・教育にかかわってこられながら退職された方々に寄稿をお願いしたところ、四本の御寄稿をいただくことができました。誌面に活気を与えて下さった山本先生、江口先生、小櫃先生、福田先生に、心より御礼申し上げます。なお、当初は鶴久先生からも御寄稿の快諾をいただいておりますが、体調を崩されたということで御辞退の連絡をいただきました。

「国文研究」第五十号（記念号）

印刷 平成十七年三月三十一日

発行 平成十七年三月三十一日

編集・発行

熊本県立大学日本語日文学会

熊本市月出三丁目一番一〇〇号

印刷 ㈲さかき印刷

☎三八〇―六五四―